



シャンペリーキャンパス本部



アヌシー湖



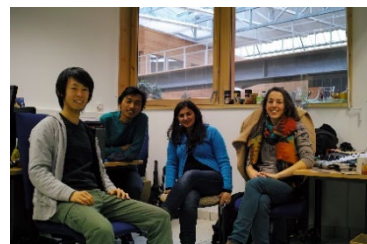
シャンペリーの街並み

国際交流の特色

サボア・モンブラン大学は、1979年近隣の各種学校を統合し創設された、学生数15,000人の中規模の国立大学である。8学部と19の研究所からなる総合大学で、法学、経済学、文学、社会学から、工学・科学までの幅広い領域をカバーしている。所在地は、フランスのローヌアルプ地方、隣接するシャンペリー市とアヌシー市に3つのキャンパスがあり、本部はシャンペリーキャンパスにある。2006年にサボア・モンブラン大学の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンペリーとなった。2000年4月に学術交流協定を締結以降、国際インターンシッププログラムによって継続的に学生の受入・派遣を行っており、相互に活発な交流が続いている。2008年には、工学部の第1回協定校訪問により、学生17名・教職員5名を派遣して交流を行っている。

交流実績（平成31年度～令和3年度）

年度	H31	R2	R3
受入・派遣			
学生の受入	3	1	2
学生の派遣	1	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）		3	35
オンライン交流参加者（相手機関）		2	10



国際インターンシップの様子

学生からの声

私は2019年9月から約4か月間、サボア・モンブラン大学にて、数理モデルを用いて脳波異常を検出する研究を行いました。英語での進捗報告や、他学生と議論を交わすことによって、自分の考えを英語で表現する力を養うことができたと思います。私が生活していたアヌシーは自然に囲まれ、治安も大変よく安心して過ごすことができましたが、始めは慣れない国での生活や、英語での研究に大きな不安もありました。皆さんもインターンに参加するかどうか考えるときに、同じような不安を感じると思います。しかし、皆さんの限られた学生生活を、他の国を知らないまま終わらせるのは非常にもったいないと思います。私は生まれてからずっと両親と香川で暮らしてきました。何も変化のない生活は非常に楽であると同時に、自分が成長する機会を奪っていたのだと思います。海外で生活をするということは、今まで出会ったことの無い文化や思想に触れる機会が多くあります。理解が難しかったり、対立することもあるでしょう。ですが、相手の育ってきた背景を理解し、受容した時、人として大きく成長できるのだと思います。

工学研究科 伊藤 佑一郎

教員からの声

サボア・モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンペリーとの研究交流は工学部の発足時より続いており、毎年数名の学生の受入と派遣が行われています。サボア・モンブラン大学の国際交流窓口のPhilippe Bolon教授とは20年以上の親交があります。2019年には、Adrien Badel教授が本学を訪れ、国際交流は創造工学部だけでなく他学部にも広がっています。

サボア・モンブラン大学は、大変ロケーションが素晴らしく、ヨーロッパ随一の透明度を持つアヌシー湖を見下ろす高台にキャンパスがあり、真っ青な空と雄大なアルプスが眼前に広がっていると聞いています。宿舎もキャンパスのすぐ近くにあり、最高の環境で国際インターンシップでの研究活動に取り組むことができます。是非、留学体験を通して異文化に触れてみましょう。

創造工学部教授 前山 祥一